

[野菜部門]

19. 秋播き作型に適した白ネギ品種「羽緑一本太」及びその播種適期

[要約]

白ネギの秋播き作型では、晩抽性の強い品種「羽緑一本太」を10月上旬に播種すると、翌年7月上旬から収穫が可能で安定した収量を確保することが期待できる。

[担当] 岡山県農林水産総合センター農業研究所 高冷地研究室

[連絡先] 電話0867-66-2043

[分類] 情報

---

[背景・ねらい]

勝英地域では白ネギの栽培が盛んで通常3～4月に定植し8月～翌年2月に出荷を行っているが、夏場の需要もあることから、より早期出荷が可能な栽培方法が求められている。その方法としては秋播き作型が考えられるが、抽苔の危険性が高いことから、この作型に適した品種の選定及び最適な播種時期を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. 「羽緑一本太」及び「龍まさり」とも、9月中旬播種では抽苔が発生し、9月下旬播種でも一部抽苔が発生したことから、早まきの限界は10月上旬と考えられる。この場合の収穫開始時期は両品種とも7月上旬からとなる(表1、図1)。
2. 「龍まさり」は「羽緑一本太」と比較して軟腐病の発生が多く、収穫期が高温になる年(平成25年)は軟腐病の発生が増加し可販収量が低下する傾向がみられる(表2、図1)。

以上のことから、収量性、抽苔回避の両面から秋まき作型には晩抽性品種「羽緑一本太」が適し、10月上旬に播種することで翌年7月から安定した収量を得ることができる。

[成果の活用面・留意点]

1. 勝田郡奈義町のデータであり、同地域と類似の気象条件において適用可能である。
2. 秋冬期に高温で推移し生育が進む条件では抽苔リスクが増加する。

[具体的データ]

表1 品種及び播種時期が抽苔率に及ぼす影響

品種	耕種年	播種時期			
		9月中旬	9月下旬	10月上旬	10月中旬
羽緑一本太	H25	14.0		0	
	H26		0.2	0	
龍まさり	H25	0		0	0
	H26	3.0	0.1	0	

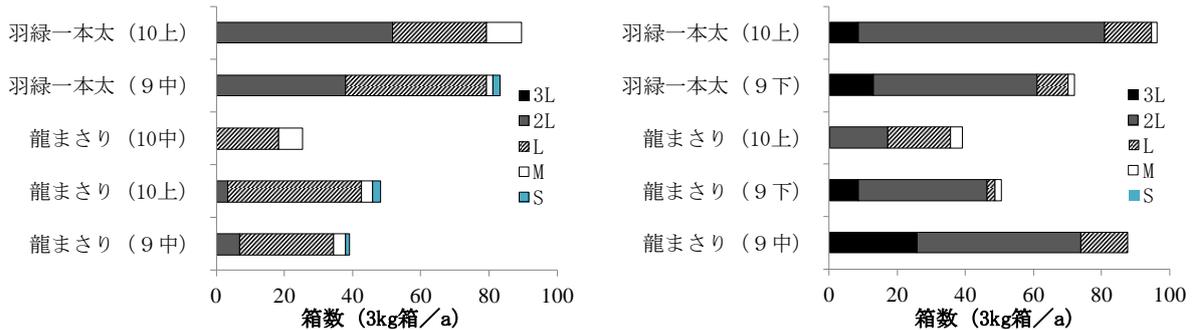


図1 品種及び播種時期が単位面積当たり箱数<sup>2</sup>に及ぼす影響

左：平成25年（7月9日収穫）、右：平成26年（7月7日収穫）

<sup>2</sup>「規格の分け方」及び「規格毎の箱当たり本数」は勝英農業協同組合の出荷規格に準じた

表2 品種及び播種時期が各種出荷不可要因に及ぼす影響（%）

	羽緑一本太		龍まさり		
	9月 中旬	10月 上旬	9月 中旬	10月 上旬	10月 中旬
平成25年					
軟腐病	9	6	32	31	47
分けつ	0	3	3	0	11
葉鞘部褐変 <sup>z</sup>	0	0	15	8	0
その他 <sup>y</sup>	0	0	0	0	8
出荷不可合計	9	8	50	39	67
平成26年					
軟腐病	7	6	12	9	21
分けつ	0	0	0	0	0
葉鞘部切れ込み	14	3	9	23	25
その他 <sup>y</sup>	0	0	0	0	0
出荷不可合計	21	9	21	32	46

<sup>z</sup> 葉鞘部の内側が褐変したもの

<sup>y</sup> 生育不良等その他出荷不可要因の合計

[その他]

研究課題名：高冷地域に適した果樹・野菜・花品種の育成・選定と栽培技術の確立

予算区分：県単

研究期間：2011～2015年度

研究担当者：川村宜久、信岡佑太、岸本直樹